

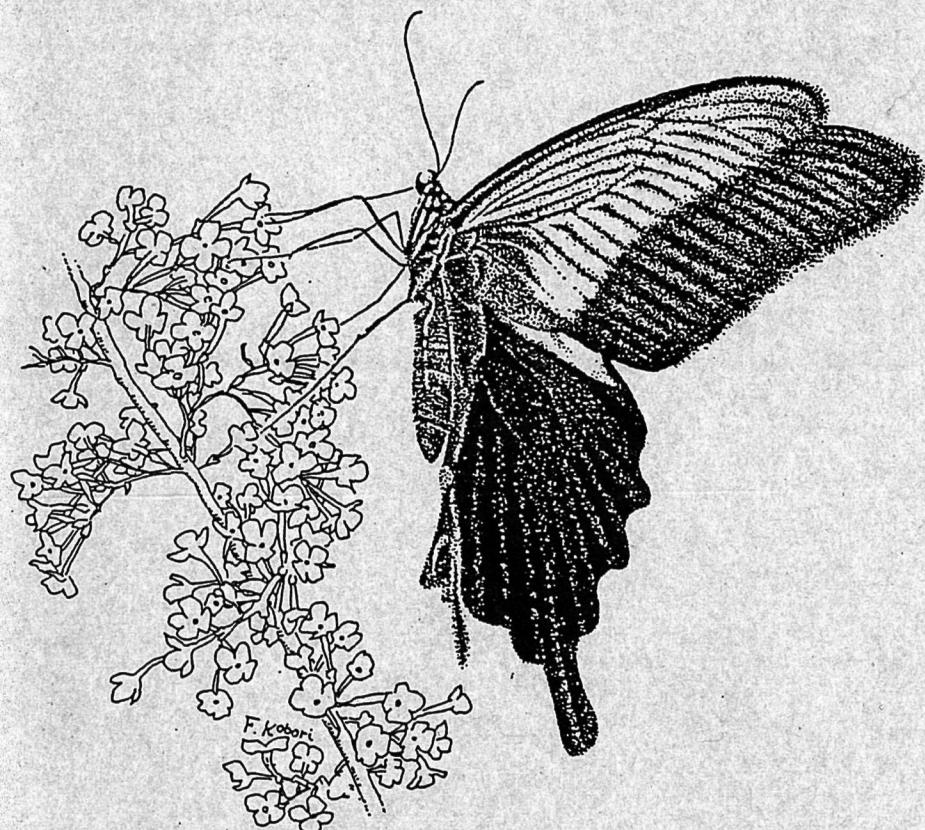
No. 46 pp. 637-663

15-III-1986

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI: Saitama Kontyū Danwakai



目 次

碓井 徹	： 編集前記	637
石澤 直也	： ヤマダカレハの産卵傾向について	639
石澤 直也	： ジャコウアゲハの蛹の寄生率について	642
原 聖樹	： 1985年 大宮市の蝶メモ	643
松井 英子	： 草加市でトラフシジミを確認	644
吉田 文作	： 小川町腰越の秋の蝶	645
吉田 文作	： 川本町の秋の蝶	647
矢島 嘉和	： アヤヘリハネナガウンカの記録	647
杉本 健一	： 1985年の狭山丘陵の蝶	648
加藤輝年・林田敏光	： 宿泊談話会における蝶の記録	649
碓井 徹	： 昆虫の視覚世界へのアプローチ(I)	650
市川 和夫	： (長野県)梓山の夏の蛾	651
水室 美芳	： 梓山での昆虫の記録	654
碓井 徹	： 埼玉県の蝶に関する覚え書き(8)	656
水室 美芳	： 埼玉県南部のトウキョウヒメハンミョウ	658
竹内 崇夫	： 石戸宿調査;調査報告と追加調査のお知らせ	658
	： 金曜セミナーの報告	659
(杉田正之)	： 新年会 今年も開かれる	660
	： 夏の宿泊談話会の報告	661
	： 訂 正	661
	： 総会のお知らせ	662
	： 会 報	663
	： 編集後記	663
(付 錄)	： 産地ラベルワープロ印刷のご案内	

表紙 絵 小堀文彦

碓井徹

46号をお届けします。50号からの新誌面に向けて、前号から誌面作りに新しい試みを取り入れていますが、前号からのオフセット印刷の外注に加え、本号では新しい雰囲気の表紙と全ページ、ワープロによる編集で迫ります。編集方針やレイアウトなどはまだまだ煮詰める部分が多いと思いますが、少なくともオフセット印刷とワープロによる編集、製版の2点については今後数年間は続くものと考えられますので、まず、そのあたりから少しお話ししようと思います。

第一に、オフセット印刷の件ですが、「寄せ蛾記」は創刊号からずっと賛写印刷で作られており、1983年に会をあげて取り組んだ狭山調査の報告書(寄せ蛾記 Supplement 2 1984)だけが、この地が早稲田大学進出に自然保護運動がからんでいた地域であったため、対外的にも注目される内容の印刷物となるので、唯一オフセット印刷で仕上げていたものでした。

オフセット印刷と賛写印刷を比べた場合、何といっても印刷面の安定性に格段の差があります。これまでの賛写印刷では、編集子の勤め先の輪転機を借用しておこなっていたので、その日の輪転機の好不調がそのまま印刷の出来不出来として出てしまい、これまでに何度か印刷状態の悪い寄せ蛾記をお送りせざるを得ない結果となっていたわけです。また、写真がうまく印刷できないことも賛写印刷の大きな欠点でした。過去、いくつかの報文に写真を付けてみましたが、あまり良い出来とはいえないものであったところをご記憶のかたも多いと思います。本号では、2つの原稿に意識的に写真を付けましたので、出来栄えをごらんください。市川氏のナマリキシタバの写真は、カラー写真をコピーして原版としたもの、私の「昆虫の視覚世界への・・・」の3枚の写真は、会員の神久保美津夫氏にお願いして、モノクロの写真をアミかけ製版してリストフィルムや紙に焼いて印刷原版としたものです。刷り上がりを見て、最も良い方法を研究したいと思います。これからは、写真付きの原稿もどしどしお寄せ下さい。

さて、印刷はきれい、写真も載る、紙質は良い、製本は美しいといことずくめのオフセットですが、ただ1つの欠点は印刷費がバカにならないことです。44号は賛写印刷で作り、原紙と紙代だけで1冊あたりの原価は40円くらいでしたが、オフセットを外注した45号は270部印刷して1冊当たりの単価は240円でした。本号は、45号とは別の印刷所に発注してみるとおりですが、単価はほぼ前号同様と思います。これからも安くて仕上げの良い印刷所をあちこち探してみるつもりです。

さて、こうして印刷費が大幅に跳ね上がると、当然会費の値上げを考えねばなりません。今までには、本誌4号分で1000円でしたから、1冊当たり250円の会費を払っていたことになり、これは(原価40円+封筒代10円+郵送料170円=220円)で、まあまあのバランスでした。しかし、オフセットにしたこと(単価240円+封筒代10円+郵送料170円=420円)で、ほぼ賛写印刷の時の2倍となります。

そのようなわけで、前号と本号の赤字分は会の運営費(「埼玉蝶の世界」の印税収入があります。詳しくは前号p. 630をご覧下さい。)で埋め合わせ、3月30日の総会で会費の値上げを提案し、承認されれば次号からは新会費による発行となると思います。この件は、次号で総会の報告としてお知らせします。

さて、次にワープロによる編集のことをお話します。前号の編集後記でも少し書きましたが、この「寄せ蛾記」は、1965年の創刊号以来22号までは市川和夫氏による手書き、23号から31号までは同じく市川氏による9ポイント・ゴチック体のタイプライター、32号からは担当が私に移って、表紙がつき5号明朝体のタイプライターで45号までやってきました。

ワープロ導入の件はもう2年ほど前からチラホラ出ていたのですが、当時のプリンターは、あのドットのデコボコがかなり目立って印字が美しくないこと、価格も高いこと、そして私の和文タイプライターが絶好調であったことから、あまり真剣には考えていませんでした。ところが、ワープロの世界は日進月歩どころか分進秒歩?でプリンターの性能は良くなるし、価格は急降下するしで、和文タイプライターより安価で高性能の製品が登場してきました。そして、「埼玉蝶の世界」による印税収入、私のタイプライターの故障と、ワープロ購入の下地は急速に揃ってしまいました。そのような流れから、会としてワープロを購入することを市川代表と相談して決定し、金曜セミナーなどでこの方面に詳しい星野正博、笹井厚子両氏に相談に乗っていただいて機種を決めました。

当会で購入したのは、シャープWD 605という9インチのブラウン管付き、3.5インチフロッピーディスクドライブによる多機能なワープロで、昨年9月に定価33万円で新発売されたものであるルートで10万円引きで11月に購入したのですが、分進秒歩のワープロ業界、シャープはこれとほぼ同性能

の機種をWD595という製品名でこの2月に22万円で売り出したました。まあ、これは仕方がないことですが、少々腹が立つことがあります。

さて、本号よりこのワープロによる編集と版下作りに全面的に切り替えるわけですが、ここでもいくつかワープロの機能を生かして色々と試みています。

まず、このワープロのプリンターは、32ドットの明朝体で印字は12ポイントの大きさですので、現在ワープロの主流になっている24ドット、10.5ポイント相当のプリンターに比べ、かなり美しい印字です。しかし、このままでは少々活字が大きすぎるので、大きな用紙に印字して、縮小コピーでB5の版下にすることを考えました。本号では、この方法を2通り試しています。1つは、この「編集前記」ですがB4の大きさでプリントアウトして、これを縮小コピーで半分のB5の大きさにしています。こうしてみると、印刷された文字としてはかなり小さく感じられます。もう1つは、この報文以外のすべての版下作りでとった方法で、MでプリントアウトしてB5に縮小したものです。これだと5号明朝体とほぼ同じ大きさになります。ついでに、目次はプリントアウトしたまま(つまり12ポイント相当)の印字を版下に使っています。それぞれの大きさを比べていただいて、どの大きさが良いかご意見をお寄せください。

報文の見出しも少々工夫しました。長文と短報、会務関係の連絡文などの見出しをそれぞれワープロの機能の倍角、4倍角(5種類あります)、網かけ(8種類あります)などで変化をつけてみました。

さて、オフセットとワープロの事はこれぐらいにして、今後の「寄せ蛾記」の編集について考えていることをいくつか書いてみます。

まず、少々格調が高くなった「寄せ蛾記」ですが、投稿規定は今まで同様、設けないつもりです。ノートの切れ端に殴り書きをしたメモも原稿として扱えるような同好会誌であり続けたいと思います。ただし、メモ風な原稿の場合、内容のニュアンスを変えない程度に編集者が語句や文章をいじることがあるかもしれません。ご承知おきいただきたいと思います。

表紙はどうしたら良いでしょうか。本号では、ただ今売り出し中の我らが小堀文彦氏の作品を使わせていただきましたが、次号からどうするかはまったく考えていません。ぜひぜひご意見を!そして次号の表紙をお楽しみに。

発行ペースは、年4回が目標ですが、定期的に出すのはまだ無理なようです。1号あたり最低20ページ、できれば28~32ページで出したいので、原稿の集まり具合が問題です。しかし、和文タイプライターでは、ある程度原稿が集まってからでないとタイプ打ちが始まられなかったので、こちらの仕事の詰まり具合によってはたくさん原稿が集まっていてもタイプ打ちの時間がとれずに発行が伸び延びになることがありました。ワープロではいただいた原稿を次々とフロッピーに打ち込んでおいて、あとで編集しなおすことが出来るので、そのような問題は解消されています。

困っているのは、別刷りの作です。晒写印刷の時は、本誌の印刷に使った版下を用いて、本誌と同じ孔版上質紙で、別途ご希望の部数を印刷すればよかったです。オフセット印刷の本誌の別刷りをこの方法で作ってしまっては、インク、紙質とも本誌と違ってしまいますし、まして写真付きの原稿の場合、まったく手の打ちようがありません。乾式コピーでも写真はうまく出ません。それならば、本誌を印刷するときに一緒に該当ページを増し刷りしておけば良いということになりますが、この製本方法(中綴じ)だと、印刷面として隣合う無関係なページも同時に印刷されるわけで、それを裁断して必要ページだけをノリ付けかなにかで崩えなければなりません。別刷りの表紙をどうするか、という問題もあります。こちらでも、印刷所に聞いて見ますが、何か良い方法がないでしょうか。

もう1つ、「連絡紙」の発行というアイデアがあります。これは、他の同好会でもよく見られる形態ですが、会誌のほかにもっとくだけた、会員相互の連絡(採集行のお誘い、標本交換、情報交換など)や、会員個人の近況報告、企画セミナーで出た面白そうな話題などを気ままに書ける性質の印刷物で、晒写印刷で本誌に同封して流せば郵送料の心配をせずにすみます。本誌をオフセット印刷にしたことでのあまり本誌のページ数を際限なく増やせない(単価が上がってしまう)という事情から出てきた話ですが、ただ今検討中です。

編集前記などというけったいな題名であれこれ書いてきましたが、「寄せ蛾記」をめぐる諸情況、ご理解いただけましたでしょうか。昨年3月の総会で、市川和夫・竹内崇夫・杉田正之・赤羽トモ子・碓井徹の5名が、会誌の編集などを検討する委員に選ばれており、より良い「寄せ蛾記」作りに向けて色々と知恵を出して行きたいと思いますが、この16号から始まった新誌面作りのための様々な試みに、出来る限り多くの会員の方々からご意見をいただきたいと思います。原稿の片すみにでも何か一言お書き添えください。次号17号は6月には出したいと思います。

ヤマダカレハの産卵傾向について

石澤直也

一昨年来本県西部地域でヤマダカレハの食害および群集行動が新聞紙面をにぎわせているので、今回その産卵行動の傾向について調査してみたので報告する。

調査地点は、新座市平林寺境内、所沢市荒幡地区および所沢市山口の堀口地区の3ヶ所を選定した。調査地点の特徴は、平林寺は都市化の波が押し寄せる東京近郊に位置し、周囲を住宅地、農地、市役所などに囲まれた雑木林、荒幡地区は狭山丘陵の先端に位置し、住宅地として開発が進んで孤立しつつある雑木林、堀口地区は狭山湖の近くで比較的開発が進んでいないところの雑木林で、これらの雑木林はコナラ、エゴノキを主体として、クヌギが点在または集中する点で共通している。

ヤマダカレハは、これらの雑木林で秋10月下旬から11月上旬にかけて成虫が発生、主としてクヌギやコナラの樹幹に産卵しているので、その産卵部位によって傾向を探れないと調べてみた。（平林寺については、散策者の多い休祭日の柵内の調査は遠慮して欲しいとの要請で、調査は散策路上に限られた。）

表-1 地区別被産卵率比較

調査地点	平林寺境内	荒幡地区	堀口地区
調査日時	1986-I-15	1986-I-26	1986-I-19
海拔高度	45m	95m	105m
斜面の向き	平地	北西	平地と西
調査本数	26	40	54
(内クヌギの本数)	(24)	(24)	(46)
被産卵本数	22	17	24
(被産卵率)	(84.6%)	(42.5%)	(44.4%)
クヌギの被産卵本数	20	15	21
(同被産卵率)	(83.3%)	(62.5%)	(45.7%)
(コナラの被産卵率)	—	(12.5%)	—
被産卵部位数	81	77	48
クヌギ1本当たりの部位数	3.9	4.9	2.1
コナラ1本当たりの部位数	1.5	1.5	1.0
1本当たり最多部位数	8	14	5

荒幡地区のデータからヤマダカレハは、コナラよりもクヌギを好むことが窺える。調査の場合、効率の観点から他の2地区では主としてクヌギを調査したので、コナラをもっと多く調べたならば、コナラの被産卵率はこの数値よりももっと低くなると思われる。

またクヌギの被産卵率を見ると、昨年大発生した平林寺と荒幡地区が堀口地区よりも高く、ほぼ開発の進展度に合致した数値を示している。つまり開発が進んだ所程クヌギの被産卵率が高くなることを表している。コナラの場合は、後で述べるが、幹のヒダの部分への産卵は殆ど無く、専ら幹に出来た傷でへこんだ部分（以下凹部と称する）に産卵される。従って凹部の数で産卵部位数が決定するため、地区による違いは余り出ない。

1 本当たり部位数及び最多部位数は総てクヌギのデータで、平林寺、荒幡地区共に大発生地域であり、一昨年の産卵跡の数よりも多い感じで、今年は昨年よりも被害が大きくなるかもしれない。特に荒幡地区ではクヌギの根元の周りには幼虫の糞がどっさり見掛けられた。

次にこれらの産卵部位の高さを分析してみた。断りがなければクヌギのデータである。

表-2 産卵部位の高さ比較（高さは斜面では下側の根元を基準）

調査地点	平林寺境内	荒幡地区	堀口地区
ヒダ	93.6cm	99.9cm	116.1cm
凹部	66.0cm	95.0cm	151.7cm
平均	92.9cm	99.6cm	125.6cm
最高点	190 SE コナラ	215 S	210 E
最低点	9 N	7 E	18 W

表-3 方位による高さ

調査地点 方位	平林寺境内		荒幡地区		堀口地区	
	部位数	高さ	部位数	高さ	部位数	高さ
N	11	74.7	10	79.5	2	49.0
NE	14	77.8	3	79.3	2	84.0
E	7	113.5	8	97.4	8	168.4
SE	15	91.1	12	82.3	5	153.4
S	10	111.1	9	131.7	8	105.4
SW	10	91.1	10	99.3	9	123.9
W	6	123.3	7	113.6	7	103.6
NW	8	99.3	15	106.8	4	147.0

表-2から狭山丘陵に近付くにつれ産卵部位が高くなることがわかる。これが気温によるものかどうかは断定は出来ない。表-3では、平林寺では、北東側に低く南西側に高く産付され、荒幡地区も平林寺と似ており、北東側に低く南西側に高く産付されている。堀口地区では北東側が低いのは他の2地区と同じであるが、南東側が特に高くなっているのが違う点である。部位数が南西側に多いのは、3地区に共通している。

次にヤマダカレハは何故コナラよりもクヌギを好むのか、これを樹皮の違いによるものとして、堀口地区で幹のヒダの深さと幅を比較してみた。コナラについては強いてヒダの深いものを選定して計った。表から、クヌギのヒダは幅広で深く、コナラでは幅が狭く浅いことがわかる。ヤマダカレハの産卵を決定するものは、幅が狭く深い溝状のものと推定でき、深いものほど好むことがわかる。コナラについてはヒダの深いものでもクヌギの産卵されていないヒダと同じ数値しかないから、ヤマダカレハにとっては、コナラよりは深いヒダの多いクヌギを探して産み付けた方がより効率的であるし、もしコナラに産卵するのなら、凹部しかない訳である。

表-4 クヌギとコナラのヒダの幅と深さ比較

産卵の有無	クヌギ		コナラ	
	産付無	産付有	産付無	産付有
調査箇所数	41	13	36	1
ヒダの深さ	5.89mm	7.48mm	4.25mm	6mm
〃の幅	19.49mm	13.88mm	13.69mm	8mm
幅と深さの比	0.30	0.54	0.31	0.75
最 深	10.50mm	10.50mm	9.50mm	—
最 浅	2.50mm	5.00mm	2.00mm	—

ここまで調べて来たとき、ジャコウアゲハの蛹化場所が極めて高い位置のものがあるのに気付き、ヤマダカレハでも高い位置に産付するものがあるのでないかと疑念が起り、高い位置を双眼鏡で再調査したところ、荒幡地区では25.3%，堀口地区では8.2%の割合で2.6mから6mの範囲で、平均が4m付近にある産卵部位が見付かった。これらの高い位置の方位は、荒幡地区では南東に偏る傾向があり、堀口地区では総て南側に偏っていた。この新たに調査しなおした数値は表-2、表-3の数値からは大きく乖離しており、ヤマダカレハの中には飛翔力が強くて高い位置に産卵するものがかなりの数いることを表している。なお、高い位置の調査は平林寺については行っていない。

最後にこれらの部位に産卵される卵の数がどのくらいか調べて見た。堀口地区的6箇所平均で173個、平林寺の北200mに位置した約1haの雑木林の10箇所の平均では144.6個だった。サンプル採集の際数%が飛び散ったので、実数はもう少し多くなる。また、卵塊の中には一部孵化したものが散見され、平林寺では

杉の柵に産付されたものもあった。平林寺に近い方が卵数が少ないと云うのは、過密な所と自然度が高いところの差と言えるのか、サンプルが少ないので断定はできない。それにしても平林寺では、クヌギ1本当たりヤマダカレハの幼虫が564頭も発生するとすると、雑木林の面積が30ha, 10a当たり10本のクヌギがあると仮定して、1,692,000頭の幼虫発生となる。日本野鳥の会に照会したら、野鳥は一般に毛虫は食べないとのこと。そうするとこれだけの幼虫を抑えることの出来る天敵はどんなもんなのか、興味が引かれるし、また、ヤマダカレハの産卵行動を実際に目で観察し、これらのデータを更に掘り下げてみたい欲求にかられる。

参考文献 原色日本蛾類図鑑(下) 保育社

(いしざわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15)

==== ジャコウアゲハの蛹の寄生率について =====

石澤直也

所沢市三ヶ島の早稲田大学建設予定地内では埼玉昆虫談話会が調査を実施した際にはジャコウアゲハの生息は未確認だった〔所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告については 30-VI-1984 寄せ蛾記 Supplement 2 参照〕が、その後大島良美氏や神久保美津夫氏が蛹や成虫を多数確認している。〔寄せ蛾記45号 617-618 参照〕今回2月7日筆者も同地を訪れ、ブドウ園の南側、シラカシを移植してある斜面を調査したところ、エノキやミズキ、ムクノキ、クワ、サクラなどの枝や幹（幹で蛹化したものは4個体あった）で多数の越冬蛹が見られた。蛹化の最低部位は、クワの木についていたもので地上54cm(寄生されていた)、最高部位はエノキについていたもので6.1mだった。

次に寄生率を調べてみたら106頭中57頭が寄生されており、寄生率は53.8%だった。クワの木で蛹化していた6個体はすべて寄生されており、他の木も調べたところ高さ2m以下の個体17頭中12個体が寄生されており、寄生率は70.6%にもなり、低い位置の個体の寄生率が高いという結果が出た。なお高い位置の蛹の寄生状況については双眼鏡で確認し、最高位については三脚にセットした200mm望遠レンズ付きカメラで測定した。

(いしざわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15)

1985年 大宮市の蝶メモ

原 聖樹

1985年に大宮市内で確認した蝶をメモしておく。場所はダイズのコミスジ幼虫のみ清河寺で、他はすべて指扇の上江橋付近。

記録中、クサフジはコミスジの新食草か？

1. ギンイチモンジセセリ 1♂① 3exs. IV-29
2. キマダラセセリ 2♂① 1♂◎ <クサフジに求蜜、以下同様> VI-23
3. オオチャバネセセリ 1♂◎ <クサフジ> 1♂① <地表で吸水> VI-23
4. イチモンジセセリ 多数 ♂① IX-1
5. アゲハ 1♂ IV-29、 1♀ VI-23
6. キアゲハ 1ex. IX-1
7. キチョウ 1♀ IV-29、 1♂① <地表で吸水> IX-1
8. モンキチョウ 1♂ IV-29、 1♂① <クサフジ、シロツメクサ>・
1死卵(クサフジ葉表より) VI-23
9. ツマキチョウ 2♂ 1♀ <カントウタンボボ> 2♂ <レンゲ> 1♂ 1♀
<カラスノエンドウ>、1卵(タネツケバナ花梗より)、1卵(タネツケバナの小さな葉の裏の葉頂部より) IV-29
10. モンシロチョウ 多数 ♂ ♀ IV-23、 1♂● <キツネノマゴ> IX-1
11. スジグロシロチョウ 1♂ 1♀ <カントウタンボボ> IV-9、 2♂● <クサ
フジ> 多数 ♂ ♀ VI-23、 亜終令幼虫 1ex. (イヌガ
ラシ葉表に休止) X-10
12. ミドリシジミ 中令幼虫 2exs. (ハンノキ新芽の巣内より)
IV-29、 2♂ 2♀ (B型) ① VI-23、 3卵 (ハンノ
キ樹幹に1卵塊) XII-31
13. ベニシジミ 多数 ♂ ♀ ① ◎ IV-29、 1♂① <シロツメクサ>
VI-23、 1♂● IX-1、 1♂● <ヨメナ> X-1
14. ルリシジミ 卵・孵化殻・2~終令幼虫 各多数 (クララ花穂
上より)
15. ツバメシジミ 3♂ 2♀ ① 1♂◎ IV-29、 1♀● [12:10(くもり)、
クサフジ茎上に1卵産付] 1♂ 1♀ VI-23、 1♂
IX-1
16. ヤマトシジミ 1♂ 1♀ X-10
17. オオウラギンスジヒョウモン 1♀● X-10

小川町腰越の秋の蝶

吉田文作

小川町は埼玉の北西部に位置し、秩父山地の玄関口にあたり、和紙の里として有名な町である。私は1985年に何度か訪れ次の種類を確認したので報告しておきます。

◎1985年9月8日(小川町腰越)

サカハチチョウ	1♀	イチモンジセセリ	12
キチョウ	2	オオチャバネセセリ	15
モンシロチョウ	多数	ヤマトシジミ	10
ウラギンシジミ	11	モンキチョウ	3

ネムの大木に30~40頭のウラギンシジミが群れているのが観察された。

◎1985年9月21日(小川町腰越)

シオンの花が咲き始めヒョウモン類が集まつてくる。

メスグロヒョウモン	1♀	オオチャバネセセリ	5
キチョウ	5	イチモンジセセリ	10
ウラギンシジミ	2	ミドリヒョウモン	9
モンシロチョウ	多数	アカタテハ	2

◎1985年9月27日(小川町腰越)

メスグロヒョウモン	3♀	モンキチョウ	2
モンシロチョウ	多数		

今年はモンシロチョウが大発生したのか、1作(12~13m)のシオンの花に、183頭ものモンシロチョウが観察された。畑仕事をしていた農家の人の話でも、こんなに多数のモンシロチョウを見たのは初めてだと言われた。

ミドリヒョウモン	9	クモガタヒョウモン	2
ヒメウラナミジャノメ	2	オオウラギンスジヒョウモン	1
ツバメシジミ	2	ヤマトシジミ	3
オオチャバネセセリ	2	イチモンジセセリ	10
ヒメアカタテハ	2	ウラギンシジミ	1
ゴイシシジミ	1	キチョウ	

◎1985年9月30日(小川町腰越)

メスグロヒョウモン	3♀
-----------	----

1984年はシオンの花に数十頭のメスグロヒョウモンが観察されたが、今年はそれほど多くはなかった。

モンシロチョウ	12	ヤマトシジミ	14
キチョウ	8	オオチャバネセセリ	2

キアゲハ	1	イチモンジセセリ	6
ウラナミシジミ	2	アカタテハ	1
ミドリヒョウモン	5	ヒメアカタテハ	1
ヒメウラナミジャノメ	1	ウラギンシジミ	2
モンキチョウ	10	ベニシジミ	11
クモガタヒョウモン	5	ヒカゲチョウ	1
ツバメシジミ	5		

◎1985年10月19日（小川町腰越）

9月の時と蝶相がやや変わってきた。

ヒメアカタテハ	2	ヤマトシジミ	5
ウラナミシジミ	15		

10月中旬になってウラナミシジミがやってきた。

ムラサキシジミ	3		
ムラサキシジミ	も	ポツポツ発生を始めた。	

メスグロヒョウモン	2♀	ウラギンシジミ	15
ベニシジミ	3	イチモンジセセリ	3
モンシロチョウ	5	キチョウ	4
モンキチョウ	2	キタテハ	11
クモガタヒョウモン	1	ルリタテハ	2
テングチョウ	4		

◎1985年10月24日（小川町腰越）

ウラギンシジミ	32

今年はウラギンシジミの発生が多いようで、熟したカキの実を吸いにやってきたウラギンシジミが多数観察された。

ウラナミシジミ	7	アカタテハ	2
ムラサキシジミ	6	ヒメアカタテハ	2
テングチョウ	3	キチョウ	9
モンシロチョウ	2		

9月にはあれほど大発生していたモンシロチョウも今ではほとんど姿を消してしまった。

モンキチョウ	2	ヤマトシジミ	8
ベニシジミ	3	ルリタテハ	1
メスグロヒョウモン	1	キタテハ	7
イチモンジセセリ	1		

◎1985年11月3日（小川町腰越）

ウラギンシジミ	18	ムラサキシジミ	8

今年もムラサキシジミがかなり大発生したようであるが、1983年の時より少ないようである。

テングチョウ	2	モンシロチョウ	3
ベニシジミ	2	モンキチョウ	2

ヤマトシジミ	8	キチョウ	5
ルリタテハ	1	キタテハ	1
ヒメアカタテハ	1		

(よしだ ぶんさく 画360 熊谷市三ヶ尻2849-1)

===== 川本町の秋の蝶 =====

吉田文作

川本町畠山は切り花の栽培が盛んで、特にケイトウが多いようである。そして、このケイトウに毎年多数のヒメアカタテハがやってくる。

しかし、今年はほとんど見掛けなかった。なお、次の種類の蝶が確認できたので報告しておきます。

◎1985年10月12日 川本町畠山

ウラナミシジミ	9	ベニシジミ	10
キチョウ	12	アゲハ	1
モンシロチョウ	6	スジグロシロチョウ	2
イチモンジセセリ	1	ヤマトシジミ	2
ヒメアカタテハ	2		

(よしだ ぶんさく 画360 熊谷市三ヶ尻2849-1)

===== アヤヘリハネナガウンカの記録 =====

矢島嘉和

1985年7月13日、伊豆ヶ岳登山の際にクリ林の横に有る木材置き場(シイタケのほだ木らしい)でアヤヘリハネナガウンカ 1 ex.を採集したので報告しておく。

正丸駅より歩いて15分位の場所で、近くにウメが数本有り少ないながらオオミスジが見られる。

(やじま よしかず 〒290 千葉県市原市辰巳台西2-22 富士電機辰巳芙蓉寮)

1985年の狭山丘陵の蝶

杉 村 健 一

狭山丘陵の昆虫と両生類を調べている中学生です。1985年に狭山湖周辺で採集したり目撃したりした蝶のうち、次の10種は報告するようにと市川和夫さんにすすめられたので記録します。

地名のうち「狭山湖林道」は狭山湖西岸の林道のことと入間市に所属しています。採集しなかったものは(目):目撃として示しました。標本は自分で持っています。↓

1. クロコノマチョウ

1♂(夏型) 所沢市堀の内 7-VII-1985

午後3時過ぎに、早稲田大学工事現場の西隣のポンプ小屋のある貯水池に行き、その奥に続く林に入ると2~3mおきに飛んでいるのが見られた。

2. ミヤマカラスアゲハ

1♂(夏型) 狹山湖林道 26-VII-1985

3. モンキアゲハ

1♂ 所沢市三ヶ島 1-VI-1985

他に1♂を目撃している。

1♂ 狹山湖林道 4-VII-1985

1♀(目) 狹山湖林道 14-VII-1985

4. オナガアゲハ

1♂ 狹山湖林道 1-VI-1985

1♂ 狹山湖林道 3-VII-1985

1♂ 狹山湖林道 4-VII-1985

割合が多い蝶ですが、三ヶ島には少なく、六道山方面の方が多いようです。

5. ジャコウアゲハ

2♀ 所沢市三ヶ島 1-VI-1985

6♀ 3♂ 所沢市三ヶ島 2-VI-1985

1♀ 2♂、5(幼虫) 所沢市三ヶ島 16-VI-1985

1♂(目) 狹山湖林道 3-VIII-1985

5(サナギ) 狹山湖林道 10-X-1985

早稲田大学の三ヶ島の工事現場に生えているウマノスズクサにたくさん発生しています。

6. シータテハ

1 ex.(秋型) 狹山湖林道 20-IV-1985

ルリタテハと共に飛んでいるキタテハと思う蝶を採集したら越冬したシータテハだった。

7.スミナガシ

1♂ 狹山湖林道 4-VIII-1985

林道上で吸水中でした

8.オオムラサキ

1 ex.(目) 所沢市三ヶ島(プラム畠) 14-VII-1985

1 ex.(目) 所沢市三ヶ島(池の上空) 3-VIII-1985

1♂ 狹山湖林道 14-VIII-1985

1♀(目) 狹山湖林道 24-VIII-1985

9.オオウラギンスジヒョウモン

1♂ 狹山湖林道 13-X-1985

10.ツマグロキチョウ

1♂(秋型) 狹山湖西岸 下旬-IX-1985

(すぎむら けんいち 〒189 東大和市南街 1-33-2)

宿泊談話会における蝶の記録

加藤 輝年・林田 敏光

宿泊談話会の際に若干の蝶を目撃、採集しているので報告する。

オナガアゲハ	3exs. 中津川 (加藤 目撃)
ヒメシジミ	3♀ 2♂(◎●) 三国峠～梓山 (加藤 採集)
ヒョウモンチョウ	3♀(◎●) 三国峠～梓山 (加藤 採集)
アサギマダラ	1♂(○) 中津川～三国峠 (林田 採集)
ジャノメチョウ	1♂(○) 三国峠～梓山 (加藤 採集)
アカセセリ	4♂(○) 三国峠～梓山 (林田 採集)
ホシチャバネセセリ	1♀ 7♂(○) 三国峠～梓山 (加藤 採集)

(かとう てるとし 画357-02 飯能市双柳 512-3)

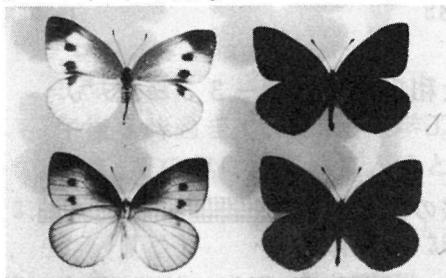
(はやしだ としみつ 画334 川口市安行吉岡 1632-4)

昆虫の視覚世界へのアプローチ（Ⅰ）

碓 井 徹

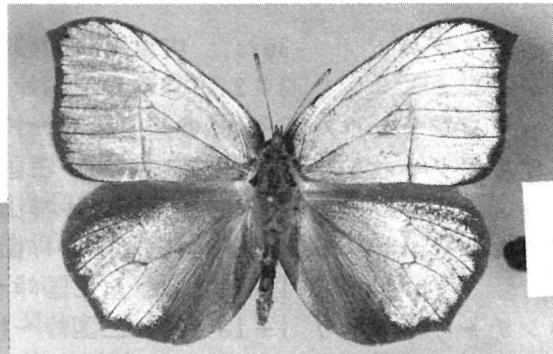
1. はじめに

まず、この連載は本当は次号より始めるつもりであった事をお断りしておきたい。それを何故本号から載せる事になったかと言うと、編集前記にも少し書いたことなのだが、オフセット印刷にして写真がどのくらいうまく印刷出来るものか、早く知りたかったからである。編集子として、写真付きの原稿を待っていたのであるが、期待していた写真は市川和夫氏のナマリキシタバのカラー写真1点だけだったので、これはコピーをして版下にし、筆者が次号から載せるつもりで書き始めたこの原稿に3点の写真をつけて、1ページ分の原稿に仕立て上げた訳である。そのような理由から、いつ終わるとも知れない連載物の第1回としてはまことに中途

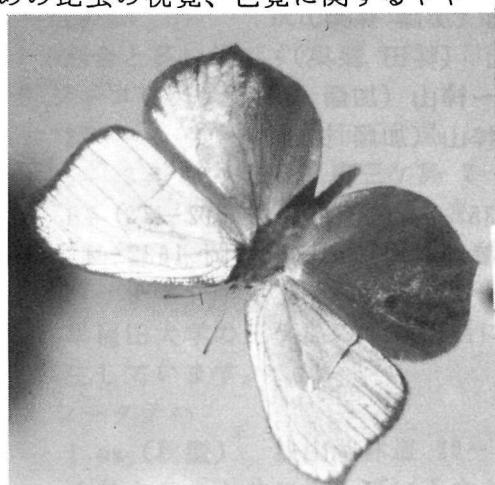


（写真1 モンシロチョウ）
半端なものとなってしまった。

やや意味不明の標題であるが、この連載で書きたいことは「虫屋による虫屋のための紫外線写真入門」であり、「虫屋による虫屋のための夜間採集用照明器具マニュアル」であり、その背景として「虫屋による虫屋のための昆虫の視覚、色覚に関するやや



（写真2 ヤマキチョウ →光源←）
学問的な解説」まで考えている。こんな風に書くと、なにやら小難しい読み物を想像されるかもしれないが、そんなことはない。かなり気ままに書こうと思う。まずは挨拶代わりの紫外線写真を3枚（写真1）は、いまやおなじみのモンシロチョウ、（写真2.3）は、光の当



（写真3 ヤマキチョウ 光源←）
て方を変えたヤマキチョウである。
(うすいとおる)

〒362 上尾市壱丁目454-3

(長野県) 梓山の夏の蛾

市川 和夫

1985年の夏の宿泊談話会において採集した蛾を記録する。特記ないかぎり、梓山の南約3kmの高原野菜栽培地で、奥秩父の稜線が遠望できる所における灯火採集の結果である。

記録した蛾は124種であるが、量的な調査が目的ではないので、採集個体は最小にとどめた。また、目録中に(戦)と記したのは、翌8月11日の10時~12時に梓山の東方約2kmの戦場ヶ原で捕虫網で採集したものである。普通種は井上寛ほか(1978)日本産蛾類大図鑑のカタログ番号と和名で示した。

埼玉県の秩父産の蛾と比較し、カラマツ、マツムシソウ、アヤメ食の蛾が見られること。オオフチグロノメイガ、シロオビマルバナミシャク、ウスグロシャチホコ、ナマリキシタバなどが採集できたこと。戦場ヶ原にはキノメイガが大量に発生していたことなどが特記される。なお、交尾器を検したものは(交)と記しておいた。

(1) 採 集 場 所:長野県南佐久郡川上村梓山

(2) 採 集 年 月 日:1985年8月10日 19時~22時

(ハマキガ科)

117 カラマツイトヒキハマキ 1♀2♂ 511 ヨモギネムシガ 2♀4♂

(ヒロバキバガ科)

1174 ツガヒロバキバガ 1♂

(メイガ科)

1456 ニカメイガ 1♀(交)

1483 テンスジツトガ 2♂

1501 フタテンツトガ 1♂

1510 ヒシモンツトガ 11♀4♂

1514 クロスジツトガ 1♀1♂

1555 ミツテンノメイガ 1♂

1609 シロアシクロノメイガ 4♂

1612 クロミスジノメイガ 2♀2♂

1628 シロハラノメイガ 1♀1♂

1646 ウスグロヨツモンノメイガ 3♀2♂

1653 ヨツボシノメイガ 1♂

1727 キノメイガ 1♂(戦)

1745 キイロノメイガ 2♂

1753 *Paratalanta cultralis* (Staudinger) オオフチグロノメイガ 1♀

東北地方北部に既知産地のある稀種である。

1886 フタスジシマメイガ 3♀

1888 ツマキシマメイガ 2♂

1916' *Euzophera* sp. フタモンマダラメイガの1種 1♀(交)

1946 アカマダラメイガ 1♀

1992 クロマダラメイガ 2♀1♂(戦)

2006 ウスアカモンクロマダラメイガ 4♀8♂

(トリバガ科)

- 2030 マエクロモンオオトリバ 1♂ (戦)
(カギバガ科)
- 2088 オビカギバ 1♂
(トガリバガ科)
- 2131 ヒトテントガリバ 1♂
(シャクガ科)
- 2182 オオシロオビアオシャク 1♂
2200 ウスミズアオシャク 1♀1♂
- 2324 ホソスジキヒメシャク 1♀
2328 オオウスモンキヒメシャク 1♂
- 2329 ウスキヒメシャク 1♀3♂ (交)
2371 シロオビクロナミシャク 1♂ (戦)
- 2381 キリバネホソナミシャク 1♀
2405 シラナミナミシャク 2♀
- 2454 ウストビモンナミシャク 1♂
2468 アミメナミシャク 4♀1♂
- 2469 ミヤマアミメナミシャク 2♂
- 2504 *Solitanea defricata* (Pungeler) シロオビマルバナミシャク 1♀1♂
長野県が南限の蛾
- 2507 ミヤマナミシャク 4♀2♂ (交)
2513 キスジハイイロナミシャク 1♂
- 2516 *Hydrelia gracilipennis* Inoue ホソスジハイイロナミシャク 2♂ (交)
本州では高地に分布している。
- 2522 ムスジシロナミシャク 1♂ (交)
2526 カラフトシロナミシャク 1♀1♂
- 2528 キイロナミシャク 1♂
2530 セジロナミシャク 1♀
- 2538 ヒメカバスジナミシャク 1♀1♂
2545 ヤハズナミシャク 3♀1♂
- 2547 フトオビヒメナミシャク 1♀
2569 クロテンヤスジカバナミシャク 1♀ (交)
- 2639 ナカジロナミシャク 1♂
2668 ミスジシロエダシャク 1♀
- 2684 ウスオビヒメエダシャク 1♂
2700 シロオビオエダシャク 17♀1♂
- 2701 チャオビオエダシャク 13♀9♂
2737 ヒョウモンエダシャク 1♂
- 2751 マルバトビスジエダシャク 1♂
2754 シロシタオビエダシャク 1♂
- 2764 マツオオエダシャク 10♂
2768 ハミスジエダシャク 1♀1♂
- 2769 オオバナミガタエダシャク 2♂
2776 クロオオモンエダシャク 1♀1♂
- 2814 コツマキウスグロエダシャク 4♀
2855 スモモエダシャク 1♀
- 2874 シロモンクロエダシャク 1♂
2892 キマダラツマキリエダシャク 2♂
- 2902 ムラサキエダシャク 1♀1♂
2907 キバラエダシャク 1♀
- 2930 フトスジツバメエダシャク 1♀
2936 トラフツバメエダシャク 1♀1♂
(フタオガ科)
- 2943 キンモンガ 2♀ (戦)
(カレハガ科)
- 2974 オビカレハ 1♂
(シャチホコガ科)
- 2969 ヨシカレハ 1♂
- 3120 カバイロモクメシャチホコ 1♀
3121 スジモクメシャチホコ 1♂
- 3160 *Epinotodonta fumosa* Matsumura ウスグロシャチホコ 1♀
本州では中部以北の比較的高地に産する。
- 3161 ハガタエグリシャチホコ 1♂

(ドクガ科)

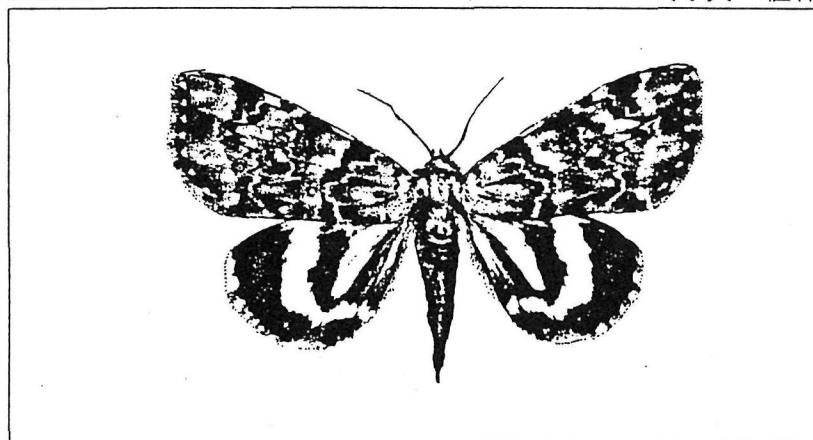
- 3198 マメドクガ 1♀
3230 モンシロドクガ 1♀

(ヒトリガ科)

- 3248 ムジホソバ 1♀1♂
3265 キベリネズミホソバ 1♀

(ヤガ科)

- 3404 カラフトゴマケンモン 1♀
3448 ニッコウケンモン 2♂
3524 ミヤマアカヤガ 1♂
3546 アオバヤガ 2♂
3557 シラホショトウ 1♂
3580 フタスジヨトウ 1♀
3776 ショウブヨトウ 4♂ (交)
3833 アオアカガネヨトウ 1♂
3870 オオウスヅマカラスヨトウ 3♂
3940 マダラツマキリヨトウ 1♂
4076 ウスシロフコヤガ 1♀
4127 シーモンキンウワバ 1♀
4149 マガリキンウワバ 1♂
4181 ワモンキシタバ 1♀
4184 ノコメキシタバ 1♂ (林田敏光氏 採集品)
4187 エゾシロシタバ 2exs. (赤羽トモ子氏 採集品)
4191 ゴマシオキシタバ 1ex. (赤羽トモ子氏 採集品)
4185 *Catokala columbina* Leech ナマリキシタバ 1♀ (写真の個体)



Catokala columbina Leech ナマリキシタバ

4270 キタエグリバ 1♂	4297 アヤシラフクチバ 1♂
4357 マンレイツマキリヨトウ 2♂	
4488 Booolocha benepartita Sugi	シモフリヤマガタアツバ 1♀
4504 ハナマガリアツバ 1♂	4521 オビアツバ 4♂
4539 ツマオビアツバ 3♀	4540 コブヒゲアツバ 3♀

以上の他に、投稿日現在、種名が確定できない蛾がヤマメイガなど小型のものが6種ある。

(いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11)

梓山での昆虫の記録

水室 美芳

梓山における宿泊談話会のおりに採集した昆虫類を報告する。採集日は、1985年8月11日のものは(11日)と表記し、それ以外の記録は同11日のものである。

鱗翅目(蝶亜目)

- (シジミチョウ科) ヒメシジミ 2♀ (11日)
 (タテハチョウ科) イチモンジチョウ 1♂ (11日)

(蛾亜目)

(ヒトリガ科)

3250 キシタホソバ 2♀1♂

3268 ヨツボシホソバ 1♀

3321 アカハラゴマダラヒトリ 1♂

(ヤガ科)

3520 コウスチャヤガ 1♂

3541 キミミヤガ 1♂

3356 クロヨトウ 1♀

3611 ミヤマフタオビキヨトウ 1♂

3557 シラホシヨトウ 1♀1♂

3553 オオシラホシヨトウ 1♂

3865 シマカラスヨトウ 2♀1♂

3872 ツマジロカラスヨトウ 1ex.

3772 フキヨトウ 1ex.

3732 カドモンヨトウ 1ex.

3889 イタヤキリガ 2♀2♂

3888 シラオビキリガ 1♀

3776 ショウブヨトウ 4♀6♂

3940 マダラツマキリヨトウ 1ex.

4076 ウスシロフコヤガ 1♀

4169 モモイロキンウワバ 1ex.

4153 オオヒサゴキンウワバ 2exs.

4181 ワモンキシタバ 1♂

4270 キタエグリバ 1♀

4296 クロシラフクチバ 1♂

4251 クビグロクチバ 2♀

4544 ウスグロアツバ 1♀

(シャチホコガ科)

- 3161 ハガタエグリシャチホコ 1ex.
(ドクガ科)
- 3222 ノンネマイマイ 1♀ 1♂
(カレハガ科)
- 2977 クヌギカレハ 1♀
(トガリバガ科)
- 2131 ヒトテントガリバ 1♂
(シャクガ科)
- 2298 ウラテンシロヒメシャク 1♂ 2530 セジロナミシャク 2♀
2892 キマグラツマキリエダシャク 2♂ 2902 ムラサキエダシャク 1♀
2768 ハミスジエダシャク 1ex. 2764 マツオオエダシャク 1♀ 1♂
2792 オオトビスジエダシャク 1♀ 2754 シロシタオビエダシャク 1♂
2814 コツマキウスグロエダシャク 1♂ 2751 マルバトビスジエダシャク 1♂
2753 ヒメナカウスエダシャク 1♂ 2874 シロモンクロエダシャク 1♀
2923 アトボシエダシャク 1♀
(マダラガ科)
- 1350 キスジホソマダラ 1♀ (11日)
(メイガ科)
- 1992 クロマダラメイガ 2exs. 1924 トビスジマダラメイガ 1♀
1853 ナカアオフトメイガ 1♀ 1653 ヨツボシノメイガ 1♀ 1♂

鞘翅目

- (オサムシ科) ヒメマイマイカブリ 1♂
(ゴミムシ科) ヒラタアトキリゴミムシ 1ex.
(コガメムシ科) ハイイロビロウドコガネ 2♀ 3♂
 キンスジコガネ 1ex. ヒメスジコガネ 1ex.
(ハムシダマシ科) アオハムシダマシ 1ex. (11日)
(カミキリムシ科) ニセフタオビノミナハカミキリ 1ex. (11日)
 ヒメナガサビカミキリ 1ex. (11日)
(ハムシ科) キボシルリハムシ 1ex. コヤツボシツツハムシ 1ex.
 ヨツモンクロツツハムシ 1ex. ブチヒゲケブカハムシ 1ex.
 カバノキハムシ 1ex. オオキイロマルノミハムシ 1ex.
(ゾウムシ科) ミヤマヒゲボソゾウムシ 1ex. シラホシヒメゾムシ 1ex.

(ひむろ みよし 画330 大宮市上小町 402)

埼玉県の蝶に関する覚え書き(8)

碓井 徹

(19) 1985年(昭和60年)の文献目録

- 小堀 文彦 (1985) オオチャバネセセリの吸いもどし行動の観察例、
寄せ蛾記 (44):595
- 原 聖樹 (1985) 川越市9月末の蝶メモ、 寄せ蛾記 (44):597
- 加藤 輝年 (1985) 中津川渓谷でウスイロオナガシジミ、
寄せ蛾記 (44):599
- 市川 和夫 (1985) 児玉郡神川村の秋の蝶、寄せ蛾記 (44):599
- 碓井 徹 (1985) 埼玉県の蝶に関する覚え書き(7)、
寄せ蛾記 (44):600-602
- 神久保 美津夫 (1985) 三ヶ島のジャコウアゲハ、
寄せ蛾記 (45):617-618
- 山崎 正則 (1985) 大宮市内でミドリヒョウモンの幼虫を確認、
寄せ蛾記 (45):619
- 野沢 雅美 (1985) 寄居町におけるモンキアゲハの記録、
寄せ蛾記 (45):621-622
- 吉田 文作 (1985) モンキアゲハの採集・目撃記録、寄せ蛾記 (45):622
- 吉田 文作 (1985) パンジーでのメスグロヒョウモンの飼育、
寄せ蛾記 (45):623
- 原 聖樹 (1985) ヒメアカタテハの越冬に関する資料など、
寄せ蛾記 (45):626
- 赤羽 トモ子 (1985) 小鹿野町における蝶の記録、寄せ蛾記 (45):627
- 荻島 和美 (1985) ギンイチモンジセセリ(読者のフォト)、
インセクタリウム 22(9):258
- 仁平 烈 (1985) 関東地方のアサマシジミ、昆虫と自然 20(5):7-10
- 市川 和夫 (1985) 埼玉県のアサマシジミ、昆虫と自然 20(5):11-15
- 大久保 茂徳 (1985) 関東平野部でクジャクチョウを観察、
昆虫と自然 20(14):14-15
- 金子 孝夫 (1985) オオミドリシジミの異常型、月刊むし (174):37
- 日本鱗翅学会関東支部・埼玉昆虫談話会 (1985)
埼玉県平野部における1984年秋のミドリヒョウモンの観察例
やどりが (124):25
- 市川 和夫 (1985) 名栗渓谷の動物たち、月刊武州路¹ (143):26-27
- 碓井徹・赤羽トモ子 (1985) 荒川本流河川敷の陸生動物目録・蝶類、
荒川本流河川敷の陸生動物目録² (19-22)

- 市川 和夫 (1985) 浦和市内のモンシロチョウ属(*Pieris*)2種の分布、
浦和市史調査報告書第17集自然編³:173-183
- 市川 和夫 (1985) 浦和の動物に関する文献について、
浦和市史調査報告書第17集自然編³:184-194
- (江村薰、萩原昇)(1985) 久喜市の動物仮目録・鱗翅目
久喜市の動・植物(I)⁴:85-89
- 白水 隆 (1985) 日本産蝶類文献目録⁵、北隆館
- 碓井 徹 (1985) 分布資料 3.間瀬・不動山 チョウ類、
埼玉動物研通信⁶ (1):15
- 碓井 徹 (1985) 昭和59年度動植物総合調査会報告
昆虫類〔鱗翅目-蝶類〕、埼玉生物⁷ (25):50-54

文献について

- 1.「月刊武州路」1985年7月号 特集(奥武蔵)
B5変形判 102pp. 富士フォルム発行
- 2.県の「荒川総合調査」の一環として行った「荒川本流の陸生動物相」の昭和59年度分の調査報告書である。B5判 33pp.
1985年3月30日、埼玉県県民部県史編さん室 発行
- 3.浦和市史調査報告書第17集 自然編は、B5判 249pp.
1985年3月30日 浦和市総務部市史編さん室 発行
- 4.「久喜市の動・植物(I)」は、久喜市史調査報告書 第4集 として刊行。B5判 126pp. 1985年2月15日、久喜市史編さん室
- 5.蝶屋が待ちに待った文献目録で、1977年までに発表された蝶に関する文献を対象としている。本文は、著者名で文献が整理されているが、巻末に種別索引と地域別索引が用意されているのが大変便利である。この地域別索引で「埼玉」の項を見てみると、360ほどの文献が載っているようである。これら埼玉県関係の蝶の文献に関しては、次号にて解説する。
B5判 873pp. 1985年6月20日 刊行
- 6.「埼玉動物研通信」は、埼玉県動物研究会の会誌。
No.1は手書き、謄写印刷 B5判 25pp. 1985年10月20日 発行
- 7.「埼玉生物」は、埼玉県高等学校生物研究会の会誌で、25号は
B5判 69pp. 1985年3月31日 発行

(うすい とおる 〒362 上尾市壱丁目454-3)

埼玉県南部のトウキョウヒメハンミョウ

水室 美芳

本種については寄せ蛾記 No.45において、大野正男氏が県内の記載をされているが、筆者の手元には次の記録があるので報告する。

1. 大宮市桜木町 1983-VII-4 (1ex.)
2. 与野市本町 1982-VII-11 (1ex.)
3. 浦和市領家 1984-VII-22 (1ex.)

以上の採集地はいずれも大宮台地の住宅地の中であるのは興味深い。

(ひむろ みよし 画330 大宮市上小町402)

石戸宿調査；調査報告と追加調査のお知らせ

竹内 崇夫

昨年1年間にわたって調査をした北本市石戸宿ですが、その調査報告書を今年の8月に刊行したいと思います。また、昨年おこなった調査で予想外の成果を得たことと、もう1年調べたいという声があちこちで出ていることから、本年も追加調査を下記のように計画しました。平地をこれだけしつこく調べるのもタマにはよろしいんじゃないですか。

1. 報告方法

A. 同定済み・・・7月1日までにお渡ししてある報告用紙にて下記へご提出下さい。

画330 大宮市丸ヶ崎町10-17 竹内崇夫 0486-86-1403

B. 未同定・・・総会(3月30日)またはそれまでの金曜セミナーに標本をご持参下さい。幹事が各専門の会員諸氏にお願いして同定致します。返却の要不要を明記してください。

2. 追加調査について

昨年と同じ要領で、次の調査日におこないます。

5月10日(土)夜間 5:30-10:00 pm

11日(日)昼間 10:00-

7月 5日(土)夜間、6日(日)昼間 (時間は5月と同じ)

9月 6日(土)夜間、7日(日)昼間

なお、詳しいことは本誌44号p.604をご覧下さい。また、お問い合わせは上記竹内崇夫まで。

金曜セミナーの報告

金曜セミナーの新しい会場が見つかりました。仮の宿としていた「ばいえる」のすぐ近くで、「ニュー ふじや」という喫茶店です。ゼミの時は貸し切りという訳にはいきませんが、お店のご厚意でフロアのかなりの部分を使わせていただくことができ、1人1話も復活しました。繁華街にあるお店なので、ゼミの最中も奥のテーブルには一般のお客さんがいつもいて、何とはなしにこちらの話にも耳を傾けている風がありますが、そのきき耳に「大晦日にヨーロッパでゲンゴロウを240ほど掘りました。」とか「インドネシアで夜間採集をしたら、クン虫やゴキブリが採れました。」などといったシュールな話をお聞かせできるのも虫屋冥利に尽くるというものです。また、店は通りに面していてゼミの様子は大きなガラス窓を通して通行人に丸見えですが、ガラス越しにやってくる「このグループは何だろう?」という視線に、スズメガの標本を振りかざしてニッコリほほ笑んで答えてしまうのも、虫屋の悲しい性でありましょう。

とにかく、金曜セミナーは無事に再開されました。そして、菱屋の2階で密室文化として存在した金曜セミナーが、人目に触れやすい場所で開かれることによって善良なる一般大衆に虫屋をアピールして市民権を獲得するまたとないチャンスでもあります。会員の皆さん、毎月第4金曜日、7時から9時までの金曜セミナーに皆さんお誘い合わせの上、ぜひお出掛け下さい。にぎやかで気楽なゼミにしたいと思います。

なお、時々第5金曜日まである月がありますのでご注意下さい。実は、1月30日に某氏に電話をしたら、「あしたのゼミで・・・」と言っておられましたが、今年は、1月・5月・8月・10月が第5金曜日まである月で、1月は24日がゼミの日だったのです。お間違えなきように。

また、長い間お世話になった喫茶店「菱屋」は、1階がファンシーグッズのお店、2階が洋品店として新装開店しました。うっかり2階へ駆け上がって標本などを見せびらかさないよう、くれぐれもご注意下さい。長らくお世話になった「菱屋」さんに紙面を借りてお礼申し上げます。

第44回 1985年11月22日 pm. 7:00~9:00 出席14名 於ばいえる

山崎 正則、市川 和夫、樋田 光、碓井 徹、牧林 功、竹内 崇夫、
水室 美芳、山田 兼則、杉田 正之、大釜 章男、小堀 文彦、小堀 洋子、
森中 定治、武田 正之

第45回 1985年12月27日 pm. 7:00~9:00 出席25名 於 ニューふじや

前号では、忘年会は出来ない、と予告したのですが、直前になって会場が見つかり、恒例の忘年会を開くことが出来ました。例によって、お楽しみのくじ引きはプレゼントも多く、特に藤本さんが持ち込んだ標本箱収納戸棚は出席者の注目を一手に集め、クジを引く手にも力がこもりました。この大物を引き当てた某

氏は、二次会では当然のことながら酒のサカナとなりました。

玉木 長寿、大熊 光治、萩原 昇、碓井 徹、巣瀬 司、水室 美芳、小田 博
松井 安俊、藤本 英夫、大釜 章男、阿部 光典、西室 義博、市川 和夫、
中村 英夫、竹内 崇夫、山崎 正則、牧林 功、星野 正博、赤羽 トモ子、
遠藤 伸幸、杉田 正之、小堀 洋子、小堀 文彦、入間田 晉、荻島 和美

第46回 1986年1月24日 pm.7:00~9:00 出席19名 於 ニューふじや
小堀 文彦、加藤 輝年、山崎 正則、市川 和夫、牧林 功、神久保 美津夫、
赤羽 トモ子、星野 正博、森中 定治、水室 美芳、大釜 章男、杉田 正之、
小田 博、阿部 光典、入間田 晉、碓井 徹、竹内 崇夫、小林 収、樋田 光、

☆ 3月30日は、会報のページでもご案内の通り総会を行いますが、前々日の28日のゼミはいつものように行います。また、5月23日のゼミはめでたく第50回となります。少し派手に何かやりましょうか・・・。

ご意見をお寄せください。

新年会 今年も開かれる

有志による新年会が2月1日（土）、2日（日）1泊で吉見八丁湖畔のフレンドシップ・ハイツにて、13名の参加で行われました。

会は6時より大広間（少々広すぎた感あり）での宴会で始まり、鍋を囲み美酒を酌み交わして酔うほどに楽しい話題が続出し、8時過ぎ話題のつきぬまま部屋に席を移して2次会、そこで笹井さんのワープロの経験を生かしたラベルが参加者に配られたり、昨年のオサムシ仕掛け人の一人A氏が今回はゲンゴロウの話しに終始、またブームを起こすのでしょうか。

その後も夏の宿泊談話会の予定地の話題などが飛び出し、夜の更けるのを忘れ話しあは続きましたが、翌日仕事の人や、睡魔に襲われた人が、一人、二人と自分の部屋に戻り、最後まで話を続けた若者（モドキ？）6人は明け方4時過ぎまで話していたとか、それでも朝8時前に元気？に起床、しっかり食事をとり10時頃より、八丁湖周辺でそれぞれの得意分野（ゲンゴロウ、オサボリ、採卵、フュシャク採集）でまずまずの成果を上げ、昼食後解散しました。

（番外編）野鳥の会に入会したというU氏、帰り際に双眼鏡でバード・ウォッチング・・・おいしそうな鶴がたくさんいる・・と心の中でつぶやいたかどうか？

参加者（敬称略）

阿部 光典 笹井 厚子 小堀 文彦 碓井 徹 市川 和夫 牧林 功
山崎 正則 竹内 崇夫 水室 美芳 遠藤 伸幸 築比地 秀夫
杉田 正之 山田 兼則

（文責 杉田 正之）

夏の宿泊談話会の報告

本号に、幾つかその時の記録が報告されていますが、昨年8月10日～11日の週末に、長野県南佐久郡川上村梓山の白木屋旅館をベースにして、恒例の宿泊談話会が行われました。

10日は、会員それぞれが三国峠を越えたり、小海線を利用したりして、夕方には現地に集合し、アルコールもほどほどに近くの梓湖で灯火採集をしたり、周辺の街灯巡りをして夜がふけるまで夜間採集を堪能しました。翌日は、曇りのち雨というあいにくの天候で、朝食後、毛木平から戦場ヶ原方面へ出掛け、アカセセリやホシチャバネセセリ、キマダラモドキなどの草原性のチョウなどを若干採集したものの、昼には降り始めた雨に追い返されるように宿舎へ戻って、解散となりました。

しかし、ナンテッタッテ埼玉昆虫談話会、その夕方、降りしきる雨の中で三国峠に車を停め、「雨はやむ。ナマリじゃ、ナマリじゃ……」とビール片手につぶやきながら雨雲を蹴散らし、執念で夜間採集を決行した御仁が2人おりましたとさ。実は、この「ナマリじゃ、ナマリじゃ組」にはもうひとりいて、3時までは雨の三国峠で同じ呪文を唱えていたのですが、一向にやまない雨に、「雨はやまない。風呂じゃ、風呂じゃ……」と叫んで峠を下ってしまいました。その人物いわく、「寄居から振り返って見た三国峠の夕焼けは、それはもうナマリ色で美しく、涙にじんで見えましたです、ハイ……」

(参加者 申し込み順 31名)

佐々木 和男 佐々木 晋吾 宮下 直 小田 博 小田 昌 松井 安俊
 松井 英子 松井 純一 星野 正博 吉田 文作 吉田 千恵子 吉田 文保
 吉田 友紀 碓井 徹 玉木 長寿 小堀 文彦 小堀 洋子 杉田 正之
 遠藤 伸幸 井上 津貴子 氷室 美芳 赤羽 トモ子 市川 和夫 小林 収
 阿部 光典 笹井 厚子 原 勝司

11日からの参加者： 加藤 輝年 林田 敏光 山崎 正則 築比地 秀夫

訂 正

☆寄せ蛾記(43):578 「ホソオアゲハ属の系統的位置は?」 加藤輝年

[参考文献]

(誤) 5) —— (1980) ウスバアゲハ亞科諸属の...

⇒(正) 5) 日浦 勇(1980) ウスバアゲハ亞科諸属の...

☆寄せ蛾記 目次および(44):596 「日高町吊着田の甲虫類」 牧林功

目次、本文中の見出し、本文のすべての 吊着田 を ⇒ 巾着田 に訂正

☆寄せ蛾記(44):597 「川越市9月末の蝶メモ」 原聖樹

(誤) ※印は訪花個体 ⇒ (正) ※印はニラ(栽培)への訪花個体

☆寄せ蛾記(45):622 「オオウラギンヒョウモンの記録」 吉田文作

(誤) 12-VII-1978 1♀ ⇒ (正) 10-VII-1978 1♀